中学校の修学旅行 ―最新リポート―

社会や自然と向き合う中で

持続可能な未来を考察 瀬戸内の島で実体験を

湘南学園中学校
広島・山口　4泊5日
13年11月　実施

神奈川県藤沢市の湘南学園中学校（山田明彦校長）は、80周年の歴史と伝統を誇る中高一貫の私立学校。独自のカリキュラムでこだわりの教育を行い、昨年はユネスコ憲章の理念を実践する教育現場としてユネスコスクールに認定された。「持続可能な社会の担い手を作ろう」という教育テーマを実践する場として、中学3年の11月に行われる研修旅行は重要な意味を持つ。「一つのイベントで終わらせるのではなく、前後の学びも重視する。中学の総まとめとして高校へつながる学習の機会としたい」と有薗和子教諭は強調する。

同校では2008年から広島と山口を訪れる研修旅行を実施している。

特に山口県の周防大島は、「首都圏に住んでいたのでは決して経験できない暮らしに出会える魅力的な場所」と考え、毎年必ず訪れている。09年からは周防大島で民泊も始まった。

例年、研修先は同じでも、学習テーマを変えて取り組んできた。

12年からは原発の問題もテーマの要素に加えた。有薗教諭は「原発の是非を問うのではなく、しい問題を学習させようと『持続可能性』をテーマに選んだ」と語る。原爆・核兵器の問題、エネルギーの問題、人が生きていく暮らし、この三つが未来への持続可能性に深く関わっていると、これらを踏まえて新しい視点で西瀬戸内を見つめ直すことにした。

そして、13年の12年5月に国内の原発が全部停止したことを受けて、現代社会が抱える新たな問題を学習することにした。

事前学習では「里山資本主義」を読み、ドキュメンタリー映画の「ヒロシマナガサキ」、「ミツバチの羽音と地球の回転」を見て議論を重ねた。

社会科では公民で原爆症認定訴訟、残留放射能の影響について、歴史で原爆投下の背景を学習。国語では原爆投下後の広島を描いた、こうの史代究所の藻谷浩介さんが書いた新書「里山資本主義」にあった。同書によると周防大島はUターン、Iターンが増え、人口の流出が止まっていた。見捨てられた農耕地、価値がないと思われていた風景など、原価0円のものから地域の資産になるものを見つけだし島を活性化する取り組みが成功していた。これこそが持続可能な未来を作る鍵だと感じた。

研修旅行でも、このテーマを深めていくことにした。ヒントは日本総合研究所の藻谷浩介さんが書いた新書「里山資本主義」にあった。同書によると周防大島はUターン、Iターンが増え、人口の流出が止まっていた。見捨てられた農耕地、価値がないと思われていた風景など、原価0円のものから地域の資産になるものを見つけだし島を活性化する取り組みが成功していた。これこそが持続可能な未来を作る鍵だと感じた。

民泊では自分たちで釣った魚を調理して食べた

有薗和子教諭

竹でご飯を炊く竹のぽんぷら飯作り体験

地引き網体験では魚の調理方法も学んだ

生徒たちは西瀬戸内海の美しい海を満喫した

ジャム作り体験では原料となるサツマイモの収穫を手伝った

離村式では別れを惜しんで涙する生徒も多かった

「生きることの意味」を被爆地広島から学び、西瀬戸内の島で暮らす人々からは、「人はどう生きるのか」について学習することにした。

事前学習では「里山資本主義」を読み、ドキュメンタリー映画の「ヒロシマナガサキ」、「ミツバチの羽音と地球の回転」を見て議論を重ねた。

社会科では公民で原爆症認定訴訟、残留放射能の影響について、歴史で原爆投下の背景を学習。国語では原爆投下後の広島を描いた、こうの史代さんの「夕凪の街　桜の国」や井伏鱒二の「黒い雨」を読んだ。音楽では「消えた八月」を合唱。教科横断型の事前学習を行うことで、感性的認識と社会認識を結びつけていった。

13年の研修旅行は11月5～9日に行われた。初日は広島で平和学習を行い、被爆者や、被爆者の後を継ぐ若手の語り部から話を聞いた。

2日目は宮島から、山口・室津に移動。「ミツバチの羽音と地球の回転」に登場する祝島の山戸孝さんや「長島の自然を守る会」の高島美登里さんを招き「瀬戸内の自然と開発について考える交流会」を行った。山戸さんは、「みんなが、自分の生きる軸をどこに置くのか決めたときに、原発は必要なのかどうなのか…賛成、反対両方から意見を聞いて主体的に選択できる力を養ってほしい」と語った。

3日目の午前中は周防大島で体験プログラムを実施。カヌーや地引き網漁、竹を飯ごうの代わりにする「竹のぽんぷら飯」作り、武者絵体験、薬草を焚く石風呂体験、ジャム屋を営むIターンの起業家と「地域づくり」について学ぶプログラムや、同じくIターンの養蜂家と語り合うプログラムなど全部で9プログラムに分かれて学習を行った。

3日目午後から最終日にかけて三つの島、50家庭に分かれて民泊を実施した。生徒たちは民泊で初めて事前学習や祝島、長島の人たちから聞いた持続可能性を実体験したという。まず、漁師や農家はほとんどお金を使わないことに驚いた。また近所の人が大根や魚がとれたからと言って持ってくる。生徒たちは「持続可能な未来をつくるためには、生物多様性の保全が必要だ」と気づいたという。

研修旅行後にまとめられた感想文には「魚に危機が訪れたなら、自分たちにも危機が迫ってくる。なぜならお互い生きていくために繋がっているのだから」など自然との共生の思いや周防大島の民泊から、人とつながることの喜びなどをまとめたものが多かった。

有薗教諭は、研修について非常に高い学習効果を得られたと語る。「今回の研修を踏まえて、社会や政治、環境問題など自分には関係ないと思わないでほしい。小さな生物の生き死には、必ず人間の生き死にも関わってくる。持続可能な未来をつくるために、自分たちに何ができるのかを考えられる人になってもらいたい」と考えている。

沖縄旅行で平和を学び 他人を思う人間に成長

奈良市立富雄南中学校
沖縄方面　2泊3日
13年5月　実施

奈良市立富雄南中学校（大澤清校長）は、自主協力や健康を学校ビジョンに掲げ、奈良市内でも学力の高さや、部活動の熱心さで知られている。サッカー部は過去に全国大会に出場経験があるほか今年は陸上部が出場。ほとんどの部活が近畿大会には出場する。

修学旅行は、毎年3学年の5月に実施しており、2013年は5月15～17日の2泊3日で沖縄を訪ねた。参加生徒数は190人。目的は平和学習をメーンに据え、ほかに沖縄の自然や文化に触れながら集団行動を身に着ける狙いもある。

旅行先としての沖縄は、11年度から続いているもので、15年度まで継続する。16年度以降は、費用の上昇や航空機の座席確保が困難になってきたことなどから、新幹線利用の長崎県に変更する予定だ。

修学旅行コースの特徴は、スケジュールにメリハリを付けていること。

1日目は、沖縄への移動後、平和学習、民泊と体験学習（南城市）の組み合わせを翌日の午後1時まで継続。2日目の午後はマリンスポーツ体験を予定していたが、雨天のため美ら海水族館見学に変更。この日はホテル泊で、夕食時に沖縄文化体験でエイサー鑑賞。3日目は、タクシー利用で6時間の自主研修（北限は名護市）の後、夕方に那覇空港から奈良への帰途についた。

コース中の主な実施内容を紹介する。

平和学習のメーン行事は、沖縄平和祈念公園内の平和の礎で平和のセレモニーを行い、平和を祈念して、全員で折った千羽鶴をささげた。ほかに、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館に立ち寄った。

南城市の家庭を味わう民泊体験は、4、5人単位で約50軒に分宿。食事は沖縄料理。民泊先での体験学習は、あいにくの雨天で、サータアンダギー作り、トンボ玉のストラップ作りが大半。家によっては、畑仕事の手伝い、海でグラスボート体験などもあった。全員が元気に民泊を体験した。退村式では生徒がお礼の歌として、「島人ぬ宝」を歌った。涙ながらに別れを惜しむ生徒が多かった。

マリンスポーツ体験は、雨天で「美ら海水族館」の見学に変更。海に入れず残念がる生徒もいたが、当初予定になかった美ら海水族館の見学に喜ぶ生徒も多かった。迫力があり、感動的だったと感想が聞かれた。

タクシーによる自主研修は、事前学習で生徒たちが各自行程を決めた。国際通り、首里城が人気だった。食事場所は自分たちで決める。コミュニケーションを取る意味から、タクシーの運転手の紹介で選ぶようにした。

自主研修中のチェックポイントとして、嘉手納町の道の駅「かでな」、宜野湾市の嘉数高台（嘉数高台公園）を設定した。道の駅かでなは、一般的な道の駅の機能だけでなく、隣接する米軍嘉手納飛行場が一望できる展望フロアや、展示パネルなどで構成された学習展示室があることから、平和学習の立ち寄りポイントとして利用。

一方、嘉数高台公園は、沖縄戦の激戦地で多くの犠牲者を出し、慰霊の塔が建立されている。公園内には地球儀をイメージした展望台があり、北は残波岬、西は慶良間諸島などが見える。沖縄戦に当時日本軍が使用した「トーチカ」が残る。米軍の普天間基地を離発着する米軍機が見えることでも知られる。

同校では、目的を明確にする事前学習、旅行を総括して次へつなぐ事後学習が的確に行われ、それらがホームページで逐次、速報として保護者に公開されている。

これについて大澤校長は「保護者や地域に学校のことをよく知ってもらいたい。『開かれた学校』を目指すといっても、気軽に誰でも学校に来校してもらうことは難しい。ホームページの公開で、少しでもそれに近づくと考える」と話す。

また、ホームページ作成を担当した3年生の学年主任、夾塲正康教諭は「修学旅行の速報のコーナーは、修学旅行期間中3日間で閲覧件数が約4千件増加した。保護者の『子どもたちが元気にやっているのか、楽しんでいるか』や、心配する保護者の『今どのあたりか。無事にやっているか』という思いが閲覧数の増加につながったと考える」とコメントする。

こうしたホームページの内容は、全国修学旅行研究協会主催の第13回「修学旅行ホームページコンクール」の中学校部門で優秀賞を受賞した。速報性に優れ、写真を活用、「調べ学習」と題した事前学習を綿密に掲載、分かりやすく完成度が高い、現地での様子もリアルタイムに近い状態で紹介されており写真もきれい――などの点で高い評価を得た。

実際の事前学習は、2年生で平和学習、3年生は実際の修学旅行の準備が行われた。平和学習だけでなく、楽しみにしている修学旅行に興味や関心、期待を持って事前学習に取り組めるように、さらに当日の修学旅行も積極的に参加できるように、生徒が自分で興味を持ったことを調べる自主学習も行っている。

事後学習では、旅行中に糸満市のひめゆり平和祈念資料館に展示される「体験者の手記」を生徒各自が選んで書き写し、それを事後学習として清書。さらに、冊子として製本した。書き写しは、見学より学習効果が高いとされる。また、「思い出のワンショット」として、生徒各自が選んだ写真1枚とそのエピソードを書いたものを教室内に掲示。参観日には保護者に見てもらった。

修学旅行の平和学習をとおして「平和について考えていかないといけないという意識が芽生えた、後世に戦争の悲しさを伝えていきたいと思う生徒が増えた」と夾塲教諭はみた。

また、大澤校長は「旅行実施後に、いじめ事象がなくなった。人の気持ちを考えられるようになったのだと思う。大きな変化だ」と評価した。

大澤清校長

夾塲正康教諭

平和のセレモニー

美ら海水族館の見学

民泊の退村式

エイサー鑑賞

自主研修で人気の国際通り

大自然と笑顔の町南会津へ。
笑顔と笑顔が出会う、温かい感動の物語。
南会津町ぼくらの農村感動体験

「農家民泊」
数人のグループで農家に宿泊。農作業に限らず料理作りなど生活全般の手伝いをしながら交流を深めます。受け入れにあたっての安全対策も万全です。

新規アクティビティ

「ラフティング体験」
南会津町には透明度が高い川がたくさんあり、都会の人はまず、その川を見て驚きます。自然を思う存分に生かしたラフティング体験を、ぜひ！

福島県南会津農村生活体験推進協議会
事務局　みなみやま観光株式会社
〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字後町甲3973-1 FAX 0241-62-7788　E-mail contact@minamiyama1.info
TEL 0241-62-2250 http://www.minamiaizu.co.jp/

映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

殺陣講座　東映京都撮影所の殺陣師や俳優が立ち回りの形をお教えします。もちろん安全性は十分配慮しています。木刀を使用した殺陣の体験を通して時代劇の魅力に触れてください。

ドラマ映像講座
【講義編】シナリオの基礎から撮影・編集の専門知識まで、一歩踏み込んだドラマの映像作りを学んでいただきます。
【撮影編】監督・助監督・撮影・照明・録音など、スタッフ役と出演者役にグループ分けして簡単な撮影を相互に行います。

清水焼絵付け体験
【染付】【京焼】素焼の生地に絵付けをしていただきます。染付の色はグレーと茶色の2種類あります。白色系に焼き上げた器やグラスに3～5色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

京扇子・京うちわ手描き体験　舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

殺陣講座

清水焼絵付け体験【京焼】

京扇子・京うちわ手描き体験

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで!
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
ナビダイヤル ℃0570-064349　お問い合わせ ℃075-864-7716
営業時間 /9:00～17:00（3～7、9月の平日と10、11月毎日）
9:00～18:00（3～7、9月の土・日・祝と8月毎日）
9:30～16:30（12～2月の平日）
9:30～17:00（12～2月の土・日・祝）
休村日 /2015年1月16日～20日